

学級活動指導案

日 時 令和3年10月15日

展開学級 3年 6組

授業者

1 題材 幸せの軸について考えよう 学級活動(3) オ 主体的な進路の選択と将来設計

2 題材設定の理由

中学校特別活動における「内容のまとめり」は以下のようになっている。

学級活動	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 <u>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現</u>
生徒会活動	(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
学校行事	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

学級活動では様々な活動を行ってきたが、3年次では、特に中学校卒業を見据え、進路の選択と実現という大きな課題に向き合うための内容を多く扱っている。そのような状況において、自らの進路を考え、実現に向けて計画を実行していく際に、目先の高校進学という目標だけに焦点を絞って狭い視野で1年後2年後のことを考えるのではなく、将来的にどのようにすれば自分らしく充実した人生を送ることができるのかという長期的な視点で考えることが大切である。変化の激しい昨今の社会情勢の中で、生徒たちはかつての常識が通用しない場面に数多く直面していくことが予想される。そのような情勢に柔軟に対応しつつ、充実した人生を送るために自分にとって大切なものをしっかりと見極める姿勢を忘れないでほしいという願いから、本題材を設定した。

具体的な活動としては、「幸せの軸について考えよう」というテーマで独自教材を作成した。導入では、朝日新聞の投書欄に寄せられた「日本人の幸福って何なの？」を読み、生徒に「幸せ」や「豊かさ」といった概念を改めて考えるきっかけとする。その後、ダイヤモンドランキングを用いて正解のない問いに生徒が取り組み、自分の考えをまとめたり、クラス内での意見交換を行うことで、「自分にとっての幸せとは」という点に焦点を絞って考えを深めさせたい。より多くの人の価値観に触れることを目的とし、ベトナムのハノイ市の私立のインターナショナルスクールである日本国際学校 (Japanese International School) に勤務する大原淳教諭(元千葉県立有吉小学校教諭)の協力を得て、同じ質問項目を日本国際学校の9年生の生徒にもオンライン授業 (ハノイ市がロックダウン中で対面授業ができないため) を実施して聞いてもらい、ベトナムにおいてもダイヤモンドランキングを作成した。本時ではそれを日本語に翻訳して提示する。同じクラスや国籍が違う同じ学年の生徒の様々な価値観に触れ、最終的に自分が大事にしたいものを自分自身でまとめていく活動を行っていくことが本題材のねらいである。唯一の正解があるものではなく、生徒がこの活動を通して、自分の価値観を再認識し、今後の進路選択や卒業後の生き方についての自分自身のひとつの軸について気付くきっかけとしたい。

3 生徒の実態(男 21名 女子 17名 合計 38名) とても思う←←

→→まったく思わない

	5	4	3	2	1
①自分は充実した生活を送っていると思う	15人	15人	4人	1人	0人
②これからの生き方について考える	14人	15人	4人	1人	1人
③自分自身に満足している	5人	6人	10人	10人	4人

出席者 35 人にアンケートを行い上記の結果となった。全員が夏休みに 1 校以上の高校の体験入学・見学を行い、進路選択について日々考えているため、生き方についての関心が高い生徒が多いことが分かった。今後進路面談を行ったり、出願書類作成のための基礎資料を作っていく上でこの関心は引き続き高いまま維持されると考えられる。自分は充実した生活を送っていると思うという生徒の 5 と 4 の割合は 85% であるが、自分自身に満足しているという数値は 5 と 4 の割合が 30% と低いことがわかった。本題材で自分の幸せの軸について考え、「どのような状態が自分が満足する状態なのか」ということを考えさせたい。

4 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。	自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。	将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。

5 千葉県国際教育部会研究主題とのかかわり

研究主題

心の国際化から、共に生きる社会へ
—国際性豊かな児童生徒の育成を目指して—

研究課題

- (1) 国際社会の中で、共に生きる社会を自ら進んで築こうとする国際感覚を育むための各教科等や特別の教科道徳の指導
- (2) 自国文化や異文化の理解と国際的視野の習得
- (3) 言語理解と主体的にコミュニケーションを図るための外国語活動・外国語の指導
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒の学習や生活に対する適応指導

本授業では研究課題 (1) ~ (4) の中から、研究課題 (1) に関する実践を試みる。課題解決の方法として「国際理解教育の視点から、教育課程全体を見直し、国際理解教育の指導内容やカリキュラムに基づく授業実践を積極的に進める」とあり、特別活動の中から学級活動(3)オの「主体的な進路の選択と将来設計」を選び授業を計画した。

国を越えてより多くの人々の価値観に触れることを目的とし、ベトナムのハノイ市の私立のインターナショナルスクールである日本国際学校 (Japanese International School) に勤務する大原淳教諭(元千葉県立有吉小学校教諭)の協力を得て、同じ活動 (ダイヤモンドランキング作成) を現地で、ベトナム語でも行っていただきその回答を資料として提示する。また、2018 年 JICA 教師海外研修でベトナムに派遣された埼玉県立鳩谷高等学校吉田大祐教諭作成のショートムービーを終末で使用する。これらの教材が効果的かを検証したい。

6 本時の指導

(1) ねらい

幸せについてのダイヤモンドランキングを作成し、それを班やクラス、また異なる環境の人と比較することで、その多様性に気づき、自分が大切にしたい生き方について考える。

(2) 展開

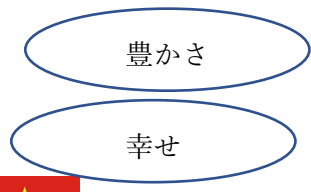
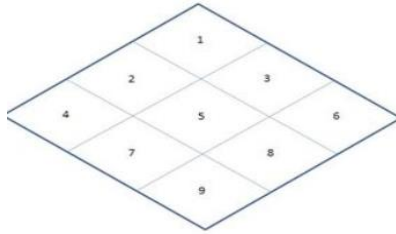
過程	学習活動と発問	指導の手立て
導入 10分	1 新聞記事を読んで思ったことを隣の席の人と話し合う。	○「日本人の幸せって？」の新聞記事を教師が読んで紹介する。
展開 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 幸せの軸について考えよう。 </div>	
展開 25分	2 幸せについてのダイヤモンドランキングを各自作成する。 3 作成したダイヤモンドランキングを近くの席の生徒同士で紹介し合う。 4 ベトナムでのダイヤモンドランキングの事例紹介を聞く。(日本国際学校9年生生徒の回答を翻訳したもの) 5 4の感想をプリントに書く。 6 大原先生自身の価値観の変容についての話を聞く。 7 もう一度自分のダイヤモンドランキングを振り返り、それもとに自分が大切にしたい生き方を考え、プリントに書き、クラスで発表する。 8 ショートムービーを視聴する。	○9つの項目を紹介する。 ①自然環境②人とのつながり③平和 ④国の発展⑤精神の自由⑥物質的豊かさ ⑦多文化共生⑧自分らしさ⑨社会貢献 ○各自違うランキングができることに注目させる。 ○zoomでハノイにある日本国際学校の大原先生から直接話を聞けるようにする。 ○リアルタイムで接続している利点を生かし、こちらからも質問があれば回答してもらうようにする。 ○ひとつの正解を求めるのではなく、多様な意見を認めて共感的に聞くことができるようにする。 ○住む場所や環境が変われば大切にしたいものや幸せや豊かさの基準が変わるという実体験に注目させる。 ○自由に考えてほしいため、特に教師のほうで誘導するような発言は控える。
終末 5分	9 本時の振り返りを行う。	○自分事としてふりかえることができるよう、これまでの自分、今日の学習で考えたこと、これからの自分について、を観点として提示する。 ◇個人が考える「幸せ」の多様性に気づき、自分が大切にしたい生き方について考えることができたか。(ワークシート)

7 板書計画

幸せの軸について考えよう

- ①自然環境
- ②人とのつながり
- ③平和
- ④国の発展
- ⑤精神の自由
- ⑥物質的豊かさ
- ⑦多文化共生
- ⑧自分らしさ
- ⑨社会貢献

ダイヤモンドランキング



大原淳先生
千葉市→ハノイへ移住
日本国際学校勤務

導入 朝日新聞の投書欄より

